

地域とともにつくる 次世代の公園運営

渋谷区立北谷公園は、地域の多様なプレイヤーと連携し、公園を魅力あふれる活動の場として運営することでエリアの価値向上を目指す日建設計パブリックアセットラボのプロジェクトです。



敷地の高低差を生かした階段状のベンチ、カフェ、平場でマーケットなどを開催するランウェイなどさまざまな活動の場をデザイン

日建設計が公共空間の運営に挑戦した初事例

日建設計は2018年、都市・社会基盤部門の中にパブリックアセットラボという部署を設立しました。公園などの公共空間の運営を通じて、新たなアクティビティを生み出し、まちの活性化と価値向上を目指す組織です。その最初の取り組みが、渋谷区立北谷公園です。

北谷公園は渋谷駅から北に約1km離れた神南エリアに位置しています。セレクトショップやカフェが集積するファッションのまちとして知られるものの、近年は空き店舗が増え、来街者が減っていました。公園は主に喫煙や駐輪スペースとして利用されており、周囲が鬱蒼と茂った緑で覆われた閉鎖的な空間でした。そこで渋谷区が、「地域の賑わい創出の拠点としてより多くの人々に有効活用される公園にしたい」という想いから、初のPark-PFI（公募設置管理制度）を適用したのが取り組みの始まりです。

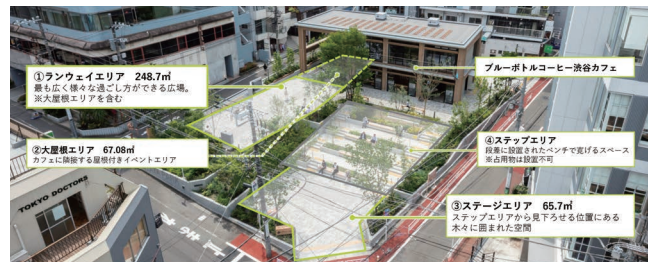
地域の人々が多様な活動を展開する場を創出

日建設計は、東急を代表とするコンソーシアムの一員としてPark-PFIに参加し、収益施設(カフェ)やランドスケープの基本設計・デザイン監修を担当しました。敷地内の高低差を生かし、異なる性格をもつ4つのエリアをつくっています。カフェに隣接しマーケットができる大屋根エリア、ステップ、ステージ、そしてファッションショーができるランウェイです。また四季を感じる緑を、光や視線が通るように配置し、まちに開かれた様々な活動が共存できる空間づくりを行いました。

運営にあたっては、東急、CRAZY ADと共に3社で「しぶきたパートナーズ」を組成し、指定管理者として選定を受けました。「YOUR CANVAS PARK——公園で描く自分色」を運営コンセプトとして、個性ある地域の人々が自由に公園を自らの活動や発信の場とすることで、エリアの魅力を高めていくことを目指しています。



従前の閉ざされた様子(左)と再整備後の北谷公園



多様な活動の舞台となる複数の広場空間

※専用可能面積は、公園の一般利用動線等に配慮して面積を差し引いた値

JINNAN MARKET——地域とともにつくるイベント

しぶきたパートナーズの中で、日建設計パブリックアセットラボが担う役割のひとつが地域連携活動の企画・運営です。近隣にある桑沢デザイン研究所の学内コンペで北谷公園のロゴをデザインしてもらったり、神南小学校の生徒と共に今後の公園を考えるシンポジウムを開催したり、多様なかたちで関係人口を増やしています。

中でも1日に5,000人という大きな集客につながったのがJINNAN MARKETです。年に3～4回、地域のモデル事務所と連携しファッション業界の出店者を集めたフリーマーケットや、ライブ、ワークショップ、ファッションショーなどさまざまな催しを行っています。公園内だけでなく道路をつかったり、渋谷公園通商店街振興組合と協力して周辺の店舗と同時開催することで、神南エリアに新たな人の流れや関係性をつくり出しています。

YOUR PARK ——使いたい人と管理者をつなぐ仕組み

北谷公園では、利用者が活用アイデアを直接管理者に伝えることができる「YOUR PARK」という仕組みも導入しています。従来は公園を利用したいと思っても、多くの場合許可申請の手順が分からなかったり、制限が多かったりするという課題があります。そこで、公園内にQRコードを設置し、誰もがWEBを通じて要望を伝えられるようにしています。出てきたアイデアはできる限り柔軟に実現できるよう関係者と協議調整します。また活用した場合の出店イメージなどをAR（拡張現実）で可視化する機能も提供しています。建物の壁面を使った映画上映会は、そうして生まれたイベントの一例です。

人流センシング ——まちのデータをセンシング

都市デザインの専門家として日建設計が担うもうひとつの大きな役割が人流センシングです。公園内にAIカメラを設置し、流入人口を定点観測しています。また、スマホのGPSデータを活用し、神南エリアの滞留人口も分析しましたが、再整備前後で比べると年平均滞留人口が約17%増加し、平日よりも休日の方が多くの方が足を運んでいることが分かっています。これらのデータを、渋谷区への報告で使用したり、イベント誘致のアピール材料とするなど、運営にフィードバックしています。

賑わいが波及していく好循環モデルを目指して

これまで公園や道路などの公共空間は、画一的な管理により行動が制限される場面が少なくありませんでした。今後低未利用の公共空間が増える中、地域の人々が各々の活動の舞台として積極的に利用することは、まちに賑わいと活気を取り戻す大きなポテンシャルを秘めています。

北谷公園では、地域の多様なプレイヤーを巻き込み、できるだけ自由に利用できる場づくりを推進しています。またイベント等を機に來街した人々がまちを回遊するための仕掛けづくりに力を入れることで、周辺への波及効果を創出しています。これからも対外的な発信を続け、新たな地域プレイヤーの発掘や関係人口の広がりを図り、活動がエリア全体に拡充していく好循環の構築を目指しています。

パブリックアセットラボではこの北谷公園モデルを、今後ニーズが予想される地方都市の公園や道路、駐車スペースなどにも、展開していく考えです。



学校や商店街振興組合、周辺の店舗や企業と連携した企画を実施



JINNAN MARKETの様子



北谷公園に設置している「YOUR PARK」のQRコードと、ARを用いて可視化された出店イメージ



公園の活用アイデアをイラストに描くワークショップ